

琉球病院の池田太一郎医師＝25日、読谷村総合福祉センター



「自分で向き合おう」

【読谷】アルコール依存症を知る講演会(中部福祉保健所主催)が25日、読谷村総合福祉センターで開かれ、琉球病院の池田太一郎医師が講演した。池田医師はアルコール依存症には誰もがかかる可能性がある「否認」が強く、本人が気付

アルコール依存
池田医師が講演
読谷

いたところには手遅れというケースが多い。ただ断酒をすることで健康的な生活を送ることができるため、池田医師は「治らないが回復する病気だ」と説明した。断酒の3本柱として①通院②自

助グループへの参加③抗酒剤の内服を挙げ、病院や公的機関への相談、仲間づくりも重要だと述べた。家族に対しては、尻ぬぐいなどをせず、本人が自分の問題として向き合う状況づくりを勧めた。

仲間づくりも重要

豊見城断酒会の比嘉厚さん(34)、當銘浩さん(56)は自身の体験を語った。比嘉さんは「酒を飲まない」と1日が終わらない」という10代ごろから依存症になったが「断酒会に参加し、寂しいのに強がっていたと気付いた。仲間がいると思えば涙が流れた」と、断酒を続けていることを報告した。